



平成28年度多摩地区保護司会連絡協議会
保護司全体研修会

水谷 修先生 講演会



調布 狛江 保護司会だより

NO.38

発行責任者

調布狛江保護司会
会長 鴨志田 守久

平成29年2月16日 (木) 府中の森芸術劇場 ドリーむホール (参加者732人)



多摩地区保護司会連絡協議会会長

野崎 重弥

日頃より、多摩地区保護司会連絡協議会の運営にご理解、ご協力戴いております事に感謝申し上げますとともに、更生保護活動にご尽力戴いております事あわせて感謝と敬意を表します。

さて、社会情勢の変化が著しい昨今、保護司に課せられる職務は大きく変化してきています。

本田宗一郎氏の言葉の中に「科学技術や社会構造がどんなに進歩し、発展しても、それを動かしていくのは人間であることを忘れてはなりません。しかし、このようなことは一人の人間では出来ないことです。多くの人の心と心の連携があつてこそ、人間は機会や社会機構を有効に使いこなすことができるものです」との一文があります。まさしく社会があつて人間がいるのではなく、人間がいて社会がある。ましてや、私達は人間を対象に職務を遂行し、人間の考える力や働く喜びや楽しさを共有することも求められています。また、これまでどちらかと言えば保護司は守秘義務の関係から、「個」としての職務が先ずありきとの部分もありました。

しかし、昨年、一昨年と調布狛江地区保護司会の活動を拝見し、組織対応力の素晴らしさと積極的な組織運営を目の当たりにし、あらためて組織の重要性を再認識させて戴きました。あれほどの組織対応力が一朝一夕で醸成できるとは思いませんが、保護司同士が互いを思いやり、理解し、自らの組織の目標と進むべき方向を共有することで、組織力が何倍にもなり、結果もそれに付随し素晴らしい成果を生む、それがまた次の原動力となる。今後も貴地区の活動が素晴らしいものであることを祈念致します。

保護司の抱える課題

多摩地区保護司会連絡協議会

会長 野崎 重弥

六年前、私は地区保護司会長に就きました。当時の保護司会は、分区、地区保護司会、多摩連、東保連という四層構造の中で事業が重複し、事務のスクラップ・アンド・ビルトも進んでおらず、保護司の負担増加が顕著でした。また、保護司法は保護司の実態に即しておらず、国は、相変わらず「保護司はお金持ちの篤志家」という感覚が残っていました。こうした問題に対して、私たち保護司は声を上げたいという現状もありました。

私は、市長の職にあったときから、「組織形態を時代とともに変化できない組織は腐敗する」との考えの下に、変えるべきものと、守るべきものについて議論し、前に進めることを基本としてきました。

多摩連の顕彰式典は、東保連の顕彰式典と重なる部分があり、表彰対象者の経験年数が同一になったこともあり、多摩連役員会に提案して廃止し、新たに多摩地区保護司が一同に集まる全体研修会をすることとしました。また、多摩地区の二十六市三町一村からは人口一人当たりいくらかという計算で更生保護に援助いただいています。この全体研修会にも使っていることを明確にし、市長会及び町村会からも後援名義をいただきました。

これは改革の一例ですが、このほかにも保護司をめぐる課題は多くあります。保護司は言われたこと

を黙ってするだけでなく、その向こうにあることを考えるべきだと思います。川に橋を架けるとき、川の向こうに何があるか分からないまま橋を架けることはしません。川の景色を見るには川の兩岸から見なければ本当の姿は分かりません。

多摩地区の保護司の方々とともに、保護司が抱える課題を真剣に議論し、課題の解決に向かって色々な場面で提案していきたいと思っております。

第七ブロック 保護司組織運営連絡協議会

日時 平成二十八年十月二十日(木)午後二時
場所 調布市文化会館たづくり

本年度は、当地区保護司会が当番地区に当たり、協議会には、オブザーバーも含めて約一二〇名の多摩地区保護司が参集し、鴨志田守久調布・狛江地区保護司会会長の挨拶に続き、幸島東京保護観察所長及び永見東京保護司連合会会長の挨拶がありました。

協議会は、「保護司の研鑽活動を考える」で、北多摩北、北多摩東、北多摩西、府中及び調布・狛江の各保護司会から報告がありました。

当地区からは、地区として自主研修を年二回行っていること、これに加えて、調布分区では自主研修を年二回、狛江分区では日帰り研修と宿泊研修を交互に年一回実施していることが報告されました。また、新任保護司に対しては、一年おきに先輩保護司との座談会を実施していることも報告されました。

当地区では、都立農業高校神代農場や深大寺において一〇〇名以上が参加して、毎年、社会参加活動が行われており、この機会に保護司相互、他団体の方々との意見交換もなされることで、保護司としての経験や視野が広がる旨報告されました。

各地区保護司会の報告の後には、協議会参加者からの質疑が続き、活発な意見交換がなされました。最後に幸島所長及び永見連合会会長の講評と次年度開催予定の北多摩北地区保護司会長の挨拶があり、本協議会を閉じました。
(広報部)



管外研修 榛名女子学園



研修部 富永 淑子

十月二十五日に四十四名で榛名山の麓にある榛名女子学園を訪問しました。昭和二十七年旧前橋陸軍病院を転用し、十四歳以上二十歳未満の少女を収容する榛名女子学園として発足。平成になり改修工事を経て、現在の建物になりました。

建物内は淡いパステルピンクの優しい色合いや、椅子なども女の子らしい感じのものが多くありました。学園長の齊田先生のお話は分かりやすく、少年院法のことを始め犯罪の歴史や再犯の事、冗談を交えてこの施設の状態などを説明して下さいました。また、矯正教育の特定指導や少年向けプログラム、独自のパートナードッグ、進路指導など、社会復帰に必要な指導や支援の内容も説明されました。個々の生徒たちの共通する問題として未熟な自己統制力・規範意識・欲求不満・自己評価の低さ等、抱える問題は多いが、自然の中で多くの体験をして自分を大切にしたいと思っています。



更生支援パートナードッグ
「ハル」と「ルナ」

地区自主研修 「アジア研」訪問

研修部 園田 和子

十一月二十九日、二十八名の保護司が参加してアジア研の施設見学及び教官による講義など、有意義な研修を受けました。

国連アジア極東犯罪防止研修所（「アジア研」又は「UNAFER」）は、国連と日本政府との協定に基づいて設立された国連の地域研修機関で、その運営はすべて法務省が担っています。国連の政策に沿って、犯罪防止・犯罪者処遇に関する国際研修及び調査研究を行っています。平成二十八年三月一日現在、国際研修は一六二回を数えています。近年は、各国の要請を受けて業務が拡大しており、フィリピンやケニアで保護司制度の導入にも協力しています。

研修棟には、三ヶ国語同時通訳可能な会議室、講堂、図書館、セミナー室、食堂などがあり、寮棟には個室三十五室、談話室、和室などがあり、全寮制の研修に必要な設備が完備しています。

卒業生は、一三七か国、五千人を超え、その多くは自国の刑事司法分野で指導的役割を果たしており、強力なネットワークを構築しています。法務省保護局との共催で、諸外国の犯罪者処遇に関する諸問題について、日本の保護司の方々に対し研修（保護司国際研修）も行っています。



地域別定例研修第II期

日時 平成二十八年十月十三日（木）

会場 調布市総合福祉センター

野呂 奈津子

保護司登録後初めて地域別定例研修に参加しました。まだ担当する対象者もないままの「一部執行猶予制度について」の研修は、正直なところピンとこない点多々ありましたが、時代とともに変化していく対象者の状況と、それに伴い改正される法制度に、敏速に柔軟に対応することが保護司に求められているのでと切に感じました。

今後は実務を通して、法改正・新規立法の背景と骨子を理解し、適切な対応ができるよう努めたいと思います。

地域別定例研修第III期

日時 平成二十九年二月七日（火）

会場 調布市総合福祉センター

鈴木 久美子

小嶋忠志主任官を講師に迎え「家族への働きかけ及び家族との関わり方」について学びました。加害者家族へは未だ制度が整っていない為、実際は私達保護司が第一線であたっているのではという前提の元、家族と関わる際のポイント・ヒントを解説して戴きました。その後、実際に起こり得る事例三ヶースについてグループ協議を行い先輩保護司の体験談を主軸に対象者との信頼関係を築く事が第一だと各グループの発表を皆で分かち合いました。

深大寺社会参加活動報告

地域活動部 金子 日出澄

毎年の恒例行事となった深大寺の社会参加活動が十二月十一日(曜日)に開催されました。当日は調布市長、狛江副市長はじめ大変多くのご来賓や、更生保護女性会、BBS、関係職員各位にご出席頂き、和気藹々とした雰囲気の中でお堂の清掃や仏具磨きなどの活動が行われました。

元三大師堂、釈迦堂、深沙大王堂、開山堂、不動堂とそれぞれのお堂に担当が割振られ、煤払いや開き戸洗い、周辺の落ち葉清掃と、皆さん手際よく作業を進められました。仕上げは仏具磨き。皆競うようにお磨きに没頭し、ぴかぴかに輝きが蘇った仏具が並び、各お堂が新年を迎えるに相応しくすっきりと綺麗になりました。

少年たちも、見様見真似で一生涯懸命に働く姿が印象的でした。こうした身体を使う作業は余計な言葉も要らず、皆で一緒に働くことで自然と生まれる協調性や連帯感を、理屈抜きで実感できる良い機会になったのではないかと思います。

お昼には、更生保護女性会の皆さんが前日からの仕込み作業で作られたおでん、地元野菜を使ったお惣菜、お米屋さんの白井桐友会副会長宅で炊いたご飯と、手間と心のこもった盛りだくさんの昼食を、皆さんの笑顔と共に美味しく頂きました。

活動の場と機会を提供頂いた深大寺の皆様から感謝を申し上げ、報告と致します。

深大寺社会参加活動アンケートより

社会参加活動に出席した感想

・調布を代表する寺、深大寺に更生保護で関わられることに意義を感じる。大勢の保護司の頑張る姿に対象者は何かを感じたと思う。将来の生活に役立ててほしい。

・久しぶりに対象者との深大寺における社会参加活動に参加出来て楽しい一日を過ごさせていただきました。午前中は不動堂の境内の清掃と堂内外のスス払い及び仏具磨きと続き、忙しい時間でしたが充実したひとときだったと思います。昼食は更女の方々が作っていただいた、炊き込みごはん、おでん等を感じしながらおいしくいただきました。「ごちそうさま」でした。お寺の掃き掃除も、護摩供養や法話も本人にとって、はじめてのことで貴重な体験だったと思います。

対象者の様子はいかがでしたか？

・本人はアルバイトしながらの専門学校生、午後は仕事があり午前中のみ。午前8時に来訪。到着後釈迦堂で作業。開会後は開山堂で煤払い、落葉はきなど、作業は熱心に取り組んでいた。昼食まで時間もありませんで仏具磨きも経験した。昼食後帰宅する。

・仏具磨きの時に、ていねいにそしてきれいに磨いていたので「うまいネ」と聞いたらボーイスカウトで、ある寺で仏具磨きを体験したと話をしてくれました。

活動を充実させるための意見

・参加対象者が少なかったのが少し、寂しかったです。後日の面接時に深大寺の清掃について、話し合いをしたら、つかれたけど、非常に良かったとのことでした。又、ダルマをいただき、帰ったら両親がとても喜んでくれたとの話を聞き、家族も喜んでいただけると活動をしているのだと思います。これからも、ずっと続けていって欲しいです。

対象者の感想

・めったにできない経験をすることができてよかったですと思ふ。

・仏具磨きは、とても大変だったけど、やることができてよかった。



BBS会だより

会長 太田 朝

昨年十二月には深大寺社会参加活動が行われ、BBS会からは三名参加しました。例年通り、開山堂の清掃と仏具磨きを行いました。BBS会では対象者と関わることでできる数少ない機会のため、毎回参加できることを楽しみにしています。

また、BBS会では久しぶりに新規会員の加入がありました。大学院生で、更生保護の分野にも興味があり、今後積極的に活動に参加してもらえらる方のため、大変期待しています。今年度中にはホームページの開設も目標にしており、さらなる会員募集をしながらBBS会を盛り上げていきたいと思ひます。今後ともご支援の程、よろしくお願ひいたします。

調布・狛江地区
協力雇用主会研修会

協力雇用主会担当 荒井 悟

梅花の香りが漂う寒さの厳しい二月二十一日に調布狛江地区協力雇用主会の皆様にお集まり頂き研修会と懇親会を開催いたしました。研修会は更生保護法人『くにたち安立』の見学と更生保護についての研修をして頂きました。

更生保護法人『八興社』としてご存知の方も多しと思ひますが平成二十六年に更生保護法人『安立園』と合併し現在の名称になったそうです。研修会は施設長木村様より講義をして頂きました。犯罪や非行によって矯正施設などに収容された

後、再び社会で生活することになったものの、頼るべき親族がない、あるいは「社会人」になる努力をしつつも生活に困っている人々を対象に住まいや食事を提供し、更に日常生活全般の相談に応じたり、仕事に就けるよう援助するなどして、その再出発を支える施設であるという内容でも深く考えさせられました。雇用主会の皆様も積極的に質問をされ、真剣に取り組む姿勢がとても印象的でした。

また、集会所においては保護司会、更生保護女性会、市民ボランティア団体の会合などに利用されている他、北多摩西部地区保護司会の任務を一層推進し、更生保護活動の充実強化を図ることを目的として、この施設内にサポートセンターが併設されています。

調布に戻り懇親会では協力雇用主六社八名と保護観察所、保護司と懇親を深めることが出来、充実した研修会になりました。



調布市立小中学校と
保護観察所・保護司との懇談会

学校連携推進委員会 酒井 淳

調布分区では毎月開催される小中合同生活指導主任会の貴重な情報交換の場をお借りし生活指導主任と保護司との懇談会を開催しております。今年度は十月六日(木) 国領小学校の視聴覚室にて開催

させていただきました。

教育委員会統轄指導主事秋國光宏氏・担当副校長の国領小学校野口直也氏・調布分区保護司会会長相田常行氏の挨拶の後、調布警察署少年第一係の担当官より管内の状況の報告の後、各学校の生活指導主任三十人・担当参加保護司二十九人が中学校の学区により八つの分科会に別れての情報、意見交換が行われました。

今年例年懇談会の前に行われる各学校の生活指導主任の先生方の情報交換、また昨年行われた東京保護観察所立川支部観察官からの保護観察についての話や事例の説明が行われなかったため、分科会の時間をゆったりとすることができ、各学校の先生方また学校担当保護司が満遍なく発言しつつ懇談することができました。

生活指導主任の先生方へのアンケートでは「(保護司と)学校の職員と話ができる機会があれば」「温かい目で見守ってください」と感謝いたします。学校ごとの情報交換は有意義だと思ひます。「子供たちをよく見ていただいてありがたいと思ひました。一人一人を大切に關わって下さっていることが伝わってきました。これからも連携を密にし子供たちのために取り組んでいきたいと思ひます」「一月一回の生活主任会のほとんどを使ってしまうほどの内容でないのが残念です。市内で保護司の方が關わって児童生徒が更正したような事例など話していただくなどの工夫があるとよいのかなと思ひます」など改善を求める率直なご意見また評価するご感想を先生方からアンケートで頂戴いたしました。いただきましたアンケートを受け止め来年度の懇談会の内容を吟味し連携を密にしていきたいと思ひます。

調布市福祉バザー

日時 平成二十八年十二月四日(日)
午前九時三十分〜
会場 調布市役所前庭
参加 十七名

今年からバザー会場が調布市役所前庭に変わりました。晴天に恵まれ、たくさんの方で賑わいました。物品の提供等ご協力ありがとうございました。

新年会

日時 平成二十九年一月十三日(金)
会場 調布クレストンホテル
参加 七十九名



調布分区理事研修

日程 平成二十九年二月十九日(日)〜二十日(月)
研修先 福島保護観察所及び
福島自立更生促進センター
副分区長 宮内 弘

調布分区理事会では年一回、一泊での研修旅行を行っております。

本年は、二月十九日から二月二十日までの一泊二日で行われました。一日目は宿泊施設に直行し、一泊した後、二日目は昨年三月まで東京保護観察所立川支部長を勤められ、福島保護観察所に観察所長として赴任された南元所長を訪ね、福島保護観察所及び同敷地内に設置されている福島自立更生促進センターを視察しました。

福島自立更生促進センターでは、南元所長の説明の後、施設見学を行いその後、施設長から施設運営の詳細について説明を受けました。

自立更生促進センターとは、国が運営する更生保護施設で、福島の他に北九州自立更正促進センターがあるということです。当センターも開設当初は他の民間更生保護施設と同様に地元住民の反対運動にさらされ、大変苦労されたようですが、現在では地域住民代表、有識者等で構成され、月一回開かれている「運営連絡会議」においてもだいたい理解を得られるようになってきたとの事です。

研修後、周りを見渡すと施設の前には震災によって集められた汚染残土がうずたかく積まれ、敷地の隣に、仮設住宅が建つものを見るにつけ、震災被害の大きさを感じた研修でもありました。

新任研修

日時 平成二十九年三月十日(金)
午後三時三十分〜五時
場所 調布市総合福祉センター
講師 須田 啓文 山本 良子
参加 二十六名(新任四名)



福島保護観察所で南元所長と



八王子ダルク見学記

十一月四日八王子ダルクを見学した。矢辺広報部長以下四名の広報部員で訪問し、加藤 隆代表から懇切な説明を受けた。

八王子ダルクは住宅街の一角に看板を掲げて街の一員になっている。整理整頓された施設について、加藤代表は、「毎日清掃しているが、誰がどこを清掃するかは決めていない。自分の始末は自分でする。子どもが大人に成長する過程をやり直すようなもの」と述べられた。薬物依存者も社会性の欠如が根本にある。八王子ダルクは定員十二名で現在入所者九人のほか、通所している人が九人。昼間は施設内でミーティングをするが、土曜日は近隣の清掃活動を行う。ミーティングで最も重要なことは「共感」。批判されることなく、自由に話せることで安心感が生まれる。薬物をやめるには、安心して何でも話せる人、場が大切だ。ダルクはそのような場を提供している。

加藤代表から説明を受け、薬物依存者の社会復帰について理解できた。

広報部



栃木ダルク見学記

薬乱防止調布地区協議会 井出 節子

十月三十日薬物防止推進協議会で栃木ダルクで研修をしました。推進委員と事務局で計九名の参加です。はるばる二時間半かけて東京から来たと受け取られたためか、三人の方が真剣に話をして下さいました。一人目は入所四ヶ月。薬物を晩酌するように使っていたと。自分で薬物をコントロールしているつもりが薬物に支配されてしまい、生活破綻。姉の尽力でダルクに。二人目は十年以上ダルク入所。薬物のことを理解してくれる職場をみつけて現在月収十四万円。もう少し収入のある職場をさがし、自立をめざしている。最後は所長さんの話。自身薬物と現在も戦い続けていると聞き、ダルクの実態が伝わってきました。

桐友会だより

調布・狛江地区桐友会

副会長 白井 貞治

この度は、大役を拜命申し上げ、誠に気の引き締まる思いです。皆さまのお力をお借りして、来年度に向けて、会と地域の発展に努めたいと存じます。

先日の当会主催健康講座は、中村昇先生をお迎えして、特に気をつけたい認知症について、生活習慣と健康維持への貴重な知識を学ばせていただきました。うっかり忘れてしまう、段取り通り行えない、

慣れているのに使い方が思い出せない、言葉がなかなか出て来ない、盗まれ妄想や突然の激高、幻覚、鬱、不安感他、不穏となる具体例ポイントとケア(対応)に「なるほど」と、頷かされました。

きょうよう(教養)を合言葉に、振ってきょうよう(事あり)と言うそうです。身支度をし身なりを整え、緊張感をもって出かけることが、何事にも真摯に向き合え、自身の日々の活性化が図れ、良いライフサイクルが生まれるというわけです。

より奢侈恬淡(しやしてんたん)を心に刻み、これからも元気に、活動に励みたいと思います。よろしくお願いします。

更生保護女性会だより

調布・狛江地区更生保護女性会

書記 田中 芳子

更生保護女性会の活動の一つに、都立農業高校と深大寺での「社会参加活動」の食事作りがあります。前日の調理、準備、当日の配膳と楽しく活動しています。今年度は、東京更生保護女性連盟創立六十年にあたり、その記録として、私たちの深大寺での活動の一部を撮影していただきました。地区保護司会から提供していただいた美味しい野菜を使って、みなさんに優しさをお届けできる私たちの笑顔も記録されている事と思います。

今年も愛光女子学園「七夕のつどい」で浴衣の着付けのお手伝いをさせていただきました。また、「施設参観」では、バザーへの参加と更生保護女性会の活動も広がっています。

更生保護事業関係者表彰者

第六十六回

社会を明るくする運動作文コンテスト

法務大臣表彰

飯塚 靖子 大林 孝男

全国保護司連盟理事長表彰

栗山 昇

全国保護司連盟理事長表彰(内助功勞)

鴨志田 智子

関東地方更生保護委員会委員長表彰

小野 道博

関東地方保護司連盟会長表彰

内野 陽次郎 遠藤 好照

小幡 邦仁 小町 新一

川又 剛 佐藤 亜古

嶋田 弘子 豊島 秀臣

門傳 良男

東京保護観察所長表彰

荒井 悟 栗山 剛

齊藤 百合子

東京都保護司会連合会会長表彰

毛塚 敬進 中野 建

東京保護観察所長感謝状(家族功勞者)

岡本 ミキ

奨励賞(東京保護観察所長感謝状)

調布市立調布中学校

調布市立神代中学校

調布市立第七中学校

保護司会の今後の予定

四月十日

狛江分区保護司会総会

四月十四日

調布分区保護司会総会

四月二十一日

調布・狛江地区保護司会総会

六月四日

神代農場社会参加活動

六月九日

地域別定例研修第一期

七月三日

社会を明るくする運動
駅頭広報

七月十七日

狛江実施大会
(中学生標語表彰式とコンサート)

十月十二日

地域別定例研修第二期

十月二十四日

第七ブロック
保護司組織運営連絡協議会

十一月二十一日

更生保護事業関係者顕彰式典

十二月三日

調布市福祉バザー

十二月十日

深大寺社会参加活動

平成三十年

一月十二日

新年会(クレストンホテル)

二月八日

地域別定例研修第三期

あとがき

昨年の協力雇用主インタビューから一年たちました。協力雇用主様三社とお会いし、インタビューは、ご苦勞な話しが中心になると思っていました。が、まったく逆な回答を受けびっくりした事を思い出します。雇用主の皆様は、何隔て無く一般の社員同様に対応し、単に人手不足だから助かるではなく、手伝いをしたいとの気持ちからご協力いただいていると感じました。さらに退社後もしっかりとそこの人の人生を気にかけていらっしやいました。改めて社会復帰の大切さを実感いたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。 栗山 剛



広報(編集)部員

部長	矢辺 良子	伊藤 知弘
副部長	愛甲 悦子	栗山 剛
副部長	酒井 淳	佐藤 亜古
書記	柿澤 正夫	須田 啓文
書記	濱中 佳朗	林田 堯瞬
會計	井上 喜一	馬部 久夫
會計	嶋田 弘子	